大田区を変える若手経営者12人

南東京支局特集

日本を代表する中小製造業の町、東京都大田区では、高度成長期を支えた経営者が引退の時期を迎え、事業所数の減少が続く。しかし、大先輩たちと入れ替わるように、いま、若手経営者が頭角を現し始めている。老舗の後継者あり、新規創業者あり、30代から40代前半の若手経営者たちはみな、抜群の行動力と変化を恐れない決断力で、大田区のモノづくりを変えようとしている。ここで紹介する12人は、互いに交友関係にあり情報を交換して若手のネットワークを形成している。（50音順、敬称略）

ダイヤ精機　社長

有石　貴子

名門の改革をかじ取り

ダイヤ精機の有石貴子は、創業者である父の急逝により04年に社長に就任。幼少時より後継者としての英才教育を受けていたとはいえ、大手自動車メーカーの一次取引先として治具・ゲージを納める名門のかじ取りを、若くして突然任されることになった。父、諏訪保雄は東京商工会議所大田支部の会長も務めたカリスマ性のある人物。強烈なリーダーを失ったダイヤ精機だったが、有石もそんな父の存命中から数々の経営改革案を提案するなどリーダーシップを引き継いでいた。従業員の応援を受け、情報システムの全面変更など大胆な経営効率化を進めている。育児と経営の両立も見事だ。

生田精密研磨　社長

生田　徹也

非球面レンズを実用化

生田精密研磨の生田徹也（38）も父の急逝により03年に社長に就任した。父の生田靖雄は理想のレンズと呼ばれる非球面レンズを機械研磨で量産する技術を確立。徹也は弟、妹と力を合わせ、実際に非球面レンズを世に送り出す仕事に取り組んでいる。

非球面レンズは手作業で磨き上げるしかなく、金型を作って大量生産するほど量の出ない産業用の光学機器には採用できなかった。しかし、生田精密の機械研磨なら産業用でもコストが見合う。徹也の仕事はこれまでにない用途や分野の開拓を進めることだ。

石崎製作所　副社長

石崎　浩樹

外資系コンサルの実力

石崎製作所は1935年に創業したチャッキバルブ（逆止弁）の老舗。その後継者である副社長の石崎浩樹（39）は、大手ガラスメーカーから外資系コンサルタント会社へと転身した経歴を持ち、MBAも取得している人物。番頭格の幹部社員が「我が社にはもったいないような人材」とほれ込む後継者だ。

国際派にして経営のプロである石崎は、まず手堅く営業部門の活性化に着手した。歴史と伝統を誇る逆止弁の既存ユーザーをもう一度掘り起こすと、売上高は一気に24%も増加。施策は手堅くとも成果は劇的だった。

エイト・グループ　CEO

岩舩　伸介

父の急逝を乗り越えて

エイト・グループは各種電子部品の検査装置を工場のライン用に開発・販売するエレクトロニクス企業グループで、社員数約100人。最高経営責任者（CEO）の岩舩伸介（34）は創業者である父の急逝に伴い、04年10月に32歳の若さでグループを引き継いだ。

エレクトロニクス業界の技術革新は速く、例えば光ディスクはCDからDVD、さらに次世代DVDへと進歩する。顧客も日本の電機業界を中心に、アジア各国の新興企業へと広がりを見せる。柔軟な発想と行動力を求められる仕事を前に、岩舩は先代がスタートしていた若手社員の登用を加速し、教育と意識改革に力を入れている。

北嶋絞製作所　専務

北嶋　貴弘

この道14年でも向上心

東京都大田区には高度な加工技術を持つ「匠」がそろう。なかでも北嶋絞製作所の北嶋一甫会長は大田区を代表する匠として知られ、大田工業連合会の会長も務める。そんな父からヘラ絞りの技術を受け継いだのが専務の北嶋貴弘（34）。20歳で入社し、この道14年になる。

父の一甫は「技術の向上に終わりはない」が口癖で、マスコミから匠と呼ばれることを嫌う。そんな父の元で修行を積んできた貴弘も「やっと一通りの仕事はできるようになったが、絞りの仕事に『最高』はない」と言う。多くの日本人が失ってしまった仕事に対する厳しい姿勢を、世代を超えて継承している。

西居製作所　専務

西居　徳和

兄弟でタイ進出を計画

西居製作所は1949年設立の精密プレス加工会社で、デジタルカメラのフラッシュの反射板といった精密部品を金型製作から手がけている。年商は約2億5000万円で従業員は18人。専務の西居徳和（33）は創業者の祖父、現社長の父に続く第3世代の経営者で、弟で取締役の広和（30）と共にタイへの工場進出計画を進めている。

大田区の町工場の多くは、顧客である大企業が生産拠点を海外にシフトし対応を迫られている。典型的な中小製造業である西居製作所の海外への挑戦を、町中の仲間たちが応援している。

南武　タイ現地法人社長

野村　伯英

海外事業担う第3世代

南武は自動車用エンジンの鋳造工程で金型や中子を動かす特殊油圧シリンダーの最大手で従業員は100人を超える。タイには02年に工場進出、06年6月には中小企業向け工場アパート「オオタテクノパーク」に移転し入居第1号となった。現地法人の社長を務める野村伯英（34）は南武の第3世代経営者に当たる。

伯英は大手住宅メーカーに就職し5年勤めたが、10年先の自分が見える生活に退屈し南武に入社した。低コストの部品生産拠点として設立したタイ工場で、現地の顧客向けに完成品製造も始めるなど才能を発揮する。

マテリアル　社長

細貝　淳一

新規創業組のリーダー

マテリアルの細貝淳一（40）は92年に26歳で会社を設立した。きっかけは勤めていた非鉄金属材料卸で、顧客から「必要なサイズにカットしてほしい」との要望を何度も受けたことだ。会社が対応しないならと、材料をストックし顧客が望むどんな形状にも加工して即納する業態を立ち上げた。

現在はアルミを中心に難しい試作部品も手がける。スピードを求める顧客に支持され、06年6月期で年商11億円まで成長した。企業数が減少する大田区で貴重な新規創業組として、ハイパーウェブの山内実や米田金型製作所の米田英一らと共にモノづくりの町に新しい風を吹き込んでいる。

ハイパーウェブ　社長

山内　実

山内実（41）は大田区で出身の新規創業組のなか

クライム・ワークス　社長

山口　誠二

クライム・ワークスの山口誠二（44）も90年に

米田金型製作所　社長

米田　英一

米田金型製作所の米田英一（43）は金型職人として10年働いた後、91年

巧電社　社長

宮丸　勝也

少数精鋭

巧電社は72年設立。宮丸勝也（37）は02年に社長に就任した第2世代で、12人の少数精鋭部隊を率い樹